

2017年4月1日～2017年12月31日

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第83期 第3四半期の株主通信をお届けいたします。

当社は現在、新たなスローガン“Passion for the Next Innovation ～次なる革新への熱い思い～”のもと、「New DMW 中期経営計画2019」に取り組み、当社のブランド化を推進しております。中期経営計画の重点テーマに取り組む中で、本年1月にDMWインド社の工場開所式を行いました。現在、初号機納入に向けた製作を進めております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年3月

代表取締役社長 土屋 忠博

代表取締役社長



## 事業の概況

### ■受注状況

当社グループが属する風水力機械業界に関しては、官公需、民需、海外向けいずれも前年同期に比べて受注が増加しております。このような環境下で積極的な営業活動を展開した結果、当第3四半期連結累計期間における受注額は、前年同期に対し113.7%の133億78百万円となりました。

### ■売上高・損益状況

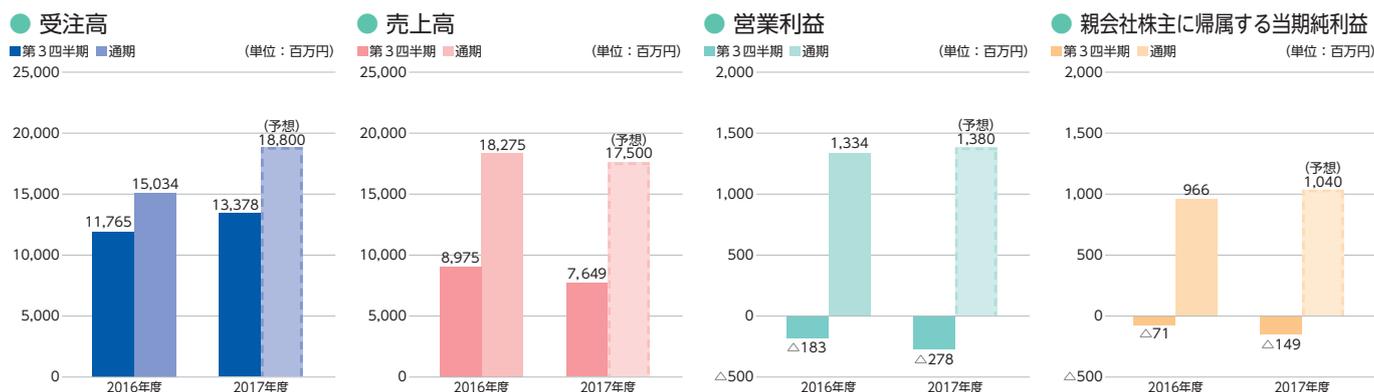
売上高については、前年度に比べ期初の受注残が少なかったことから、前年同期に対し85.2%の76億49百万円となりました。また、利益については、売上高の減少により前年同期に比べて減少し、営業損失は2億78百万円（前年同期営業損失1億83百万円）となりました。その結果、経常損失は1億76百万円（前年同期経常損失78百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億49百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失71百万円）となりました。

なお、当社グループの売上高は、公共事業物件の割合が高いため連結会計年度末に集中する傾向があり、四半期別の業績には季節の変動があります。

### ■通期の見通し

2018年3月期の連結業績予想については、第3四半期連結累計期間における進捗状況を踏まえ、前回予想（2017年11月14日公表）を変更しております。売上高については、主に官公需向け既受注物件の一部において追加受注があったこと等により増加し175億円となる見込みです。営業利益については、増加した売上物件の利益率が高かったことにより増加し13億80百万円となる見込みです。また営業利益の増加により、経常利益は15億40百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は10億40百万円となる見込みです。

## 連結財務ハイライト



## DMWインド社 工場開所式

2018年1月25日、当社子会社であるDMWインド社は、プネ市に建設した工場の開所式を開催しました。

開所式には、工場建設に携わった方々や各種サプライヤーの皆様にご出席いただき、セレモニーを行った後、ポンプの製造工程に沿って各種生産設備をご案内しました。

会場をムンバイに移しての記念パーティーには、ムンバイ総領事を主賓にお迎えし、インド国内の顧客の皆様など90名の方々に出席いただきました。

はじめに、当社社長の土屋から、長年にわたるインドでの納入実績の紹介と、今後、インド国内での生産開始により、DMWブランドの一層の浸透を目指していく旨の挨拶がありました。



●工場全景



●開所式の様子



●記念パーティーの様子

その後の技術プレゼンテーションでは、当社主力製品の紹介、優位技術のピーアールを実施しました。プレゼンテーション後の質疑応答では、当社製品の導入に関するご相談もいただき、顧客の皆様からの期待の大きさを改めて認識いたしました。

DMWインド社は、GAS & OIL市場向けポンプのみならず、海水淡水化市場向けのポンプも製作し、将来的にはインド国内市場はもとより中東、アフリカ市場も視野に入れた製品供給体制の充実を図っていきます。

ホームページ  
のご案内

当社ホームページ

<http://www.dmw.co.jp/>

最新のIR情報につきましては、  
当社のホームページ「IR情報」を  
ご参照ください。

「株主・投資家情報」  
検索はこちらから▼

電業社 IR

検索

